



イケダユーコ

イケダユーコさんに初めて会ったのは大阪・SEWING TABLE GALLERY でのイベントだった。挨拶すると、以前に個展を観に行ったとき、芳名帳に記していた名前を覚えていてくれたようで、和やかな笑顔で応えてくれた。描く線や色と同じような、やわらかな人だった。

2018.04.28 sat - 05.13 sun  
in utanotane

## イケダユーコ 個展 「いま、どこ いま、ここ」

イケダユーコ

<http://ikedayu-ko.com>    @ ikeda\_yuko

画家・イラストレーター

1980年広島生まれ。2004年から関西を中心に作家活動をはじめ、雑誌や書籍のイラストレーションの仕事も行なっている。紙や布に描いたり、糸で刺繍をしたり、銅版画など、素材にこだわらず作品を制作。風のような、空気をのこした作品を届けたいと想い、描く。現在は鹿児島在住。

イケダユーコさんのことを知ったのは、たしか utanotane をはじめてまだ間もない頃。大阪のちいさな出版社 [BOOKLORE (ブックロア)] から刊行された彼女の作品集『無国』を通してだったと思う。そこには動物のようなものや人のようなものや植物のようなものが線で描かれていた。「ようなもの」であって、よくわからなかった。線はゆらぎ、形ははっきりせず、そこにひょうひょうと漂いながら生きているようだった。それから個展を観に行ったりするようになって、彼女本人とも出会うことができ、絵を描いている様子を見る機会もあった。初め

て間近で彼女が絵を描いているのを見たときは驚いた。これは褒めているのだけど「何が見えているのだろう」と思った。目の前のものを描いているのだけれど、わたしの見えているものではなかった。その線や色は、風を含んでいるようにやわらかく、軽やかにゆらいている。それは、目の前のものの空気をすくって筆に乗せているかのようにも思えたし、さらさらと流れるように手を動かし描く姿は音楽を奏でているようにも思えた。「絵を描くのって楽しいですね」と、いつか彼女が絵を描きながらこぼした言葉を聞いて、「そうか、イケダユーコは歌っているんだ」と、はなうたを歌うように描いている人なんだと思った。

